

秋山南地区 厚木秦野道路建設に伴う発掘調査



近世の頃は耕作地であったと考える
画面手前にはローム面が見られる



中世馬の歯が出土した土坑



C2号溝状遺構。幅6～7m、深さ2m前後で用水路の役割を持っていたのではないかと考える



古墳時代中期の高環が出土した土坑



縄文時代の陥穴
先端を尖らせた杭などを固定するための施設がある

秋山高架②地区 新東名高速道路建設に伴う発掘調査



中世の堀跡
幅3m、深さ1mで、断面が逆台形
台地裾をめぐる (20東区)



縄文時代(約4000年前)の谷
集落に隣接する生活跡の発掘 (20西区)



近世の井戸
富士玄武岩製の茶臼が出土(20西区)



近世前半の溝跡 (22南区)



縄文時代の配石遺構
重さ50kg前後の川原石が並べられ、中に石棒を立てている
(21南区)